

平成29年 年頭のごあいさつ

「佐世保市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を深化させ

市民の皆さまと一体となった取り組みを

佐世保市長 朝長 則男



明けましておめでとうございます。
輝かしい平成29年の新春をご家族
おそろいでお迎えにられましたこと
とを、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月には
中核市に移行し、名実ともに西九州
北部地域の拠点都市として歩み始め、
佐世保市立総合病院も地方独立行政
法人佐世保市総合医療センターとし
てスタートしました。また日本遺産
として「鎮守府」(日本近代化の躍動
を体感できるまち)と「三川内焼」(日



ことしの干支「酉」にちなんで制作された
置物(平戸洗祥団右工門案)

本磁器のふるさと肥前)のストーリー
が同時に認定されました。

さらに市民の皆さまから多くのご
要望をいただいていた子ども医療費
の負担軽減も昨年8月から中学生ま
での対象とすることが実現できまし
た。このほか企業立地や多くの企業
の求人増などにより、有効求人倍率
が1.53倍(平成28年10月末現在と
全国平均を上回るなど、明るい話題
が多い一年であったように思います。

さて、本年は佐世保市制115周年
の節目の年であり、まずは昨年か
ら本格的に取り組んでいる「佐世保
市まち・ひと・しごと創生総合戦略」
について、「産・官・学・金・労・言・
民・福」が連携し、さらなる深化を
図っていきます。その最も大きな課
題である人口減少対策には、独身男
女の結婚支援やU・J・ターン受け入
れ対策などに全ての市民の皆さまと

一体となって取り組んでいきたいと
思います。

また、本年は特にクルーズ船の大
型化と寄港数増加に対応するため、
国の意向と支援に即し、三浦岸壁の
延伸工事などに力を注ぎます。そし
て、市民の皆さまに長年親しまれ、
本年3月末で閉館となる佐世保市民
会館の跡地活用を含め、名切地区の
再整備を進めていきます。さらに、
昨年から地方創生のモデル地域とし
て取り組んでいる俄ヶ浦半島の活性
化の動きと連携し、懸案であった「つ
くも苑」跡地活用について、土地所有
者である長崎県に働き掛け、地元自
治体として解決に導いていきたいと
考えています。このほか「英語が話
せるまち佐世保」の事業の具体化を
図るとともに、地域の絆づくりプロ
ジェクトについては、29年度中に地
区公民館単位で、市内全地区におけ

る地区自治協議会の設立を目指し、
その根拠となり町内会加入を促進す
る条例の整備も進めたいと思います。
一方、長年の懸案事項である基地
政策の課題については、前畑崎辺道
路の事業化をはじめ、前畑弾薬庫の
移転・返還の促進、国における水陸機
動団の新編に係る協力・支援などに
ついて取り組み、石木ダムによる新
規水源開発についても、県と協力し
て進めてまいりたいと思います。

このほかにもさまざまな課題や行
事が目白押しですが、本年も市民の
皆さまにご理解をいただきますながら、
全力で推進してまいりますので、こ
れまで同様にご協力を賜りますよう
よろしくお願い申し上げます。
結びに、本年が市民の皆さまに
とって、光り輝く年となりますよう
心から祈念申し上げます。年頭の
ごあいさつといたします。